



3月の安全就業重点事項

近道・省略行動を しない、許さない



<具体的推進事項>

- ① 先輩がまず良い手本を見せる
- ② お互いに注意し合える関係を作る
- ③ 慌てているときこそ深呼吸「安全第一！」

① 近道行動、省略行動とは

近道行動とは、本来ならすべきことを「何らかの事情」によってしないことをいいます。わざと行わない場合もあれば、うっかりし忘れる、強制的にさせられない場合もあります。「急がなくては」という気持ちから引き起こされる行動です。

省略行動とは、本来すべき手順の一部を省略して目的を達成しようとすることです。定められた手順やマニュアルを守らず、早く簡単に済ませてしまおうとすることです。「面倒だ」という心理が省略行動を引き起こしていると言われています。

「近道・省略行動」 危険度チェック



あなたの現場は大丈夫？

日本キャピラー
「安全への視角」から一部改変

個人の気持ちや油断だけでなく、就業班の雰囲気や就業環境も近道・省略行動を招く要因になっています。あなたの就業現場の危険をチェックして安全な現場づくりに取り組みましょう。

◆事故の発生状況◆ 令和元年度

	令和2年 2月発生分	年度 累計	前年度 同月累計
傷害事故	0	3	9
賠償責任事故	0	3	8
計	0	6	17

② お互いに注意し合える関係と雰囲気をつくりましょう

近道・省略行動等の不安全行動を見かけたら、先輩・後輩や年齢に関係なく気軽に注意できるよう、日頃からオープンな人間関係を作るように心掛けましょう。

③ まずは先輩がお手本を！

「自分が年上だから」「技術が高いから」と口だけで不安全行動を指摘するのでは反発を招きかねません。率先垂範。まず先輩が進んで行動し、手本を示しましょう。

④ 指差呼称を習慣づけましょう

安全への意識レベルを高め、不注意によるミスを防ぐために、指差呼称をしっかりと行いましょう。



●チェックリスト

- 単調な作業の繰り返しや、同じ通路の往復が多い。
- 道具や機材が遠い場所にある。決まったところに置いていない。
- 納期(工期)が厳しく、仕事をせかされることが多い。
- ちょっとしたミスは、お互いに目をつむるようにしている。
- ベテラン会員と若手会員が、言いたいことが言える雰囲気ではない。
- 安全マニュアル通りに就業していると、周囲から笑われる。
- 安全活動や安全教育が、形だけでマンネリになっている。
- 就業現場は効率優先で、安全は後回しだ。皆がそう思っている。

判定

- 0個…………… 優秀です。今の状態を維持しましょう。
- 1～3個……… あと少し！チェックの付いた項目をすぐに改善しましょう。
- 4～6個……… 注意が必要です。大きな事故につながる前に早めの対策を！
- 7個以上……… 危険がすぐそこに！全員で一斉見直しを！

安全優良会員に学ぶ「自己コントロール」の方法

危険な省略行動をしないように、自分を律する知恵として、安全就業の優良会員による次のような心がけに学びましょう。

- ①「自分は手抜きをしないから事故を起こさない」と常に言い聞かせる
＝多くの事故が手抜きから起こっていることを意識する。
- ②「皆が合図しないから」等と他人のせいにしない
＝他の車が合図しないから自分も省略していいだろうとは考えない。
- ③急いでいるときこそ落ち着いて確実に操作する
＝慌てると確認行動などを省略しがちなので、気持ちに余裕をもって行動する。
- ④指差呼称を取り入れる
＝「後方よし」などと指差確認して、一つひとつ安全を確かめる習慣をつけておく。
- ⑤行動する前に「ひと呼吸置く」
＝常に間をとる行動習慣をつけて、すぐに次の操作をしないように心がける。
- ⑥1 2 3など数を数えて省略を防ぐ
＝安全確認をする時は、ワン（前方）・ツー（側方）・スリー（後方）と数を数えリズムを付けて必ず全方位を確認する。



長浜市シルバー人材センター 令和2年度「安全就業スローガン」 優秀作品決定！

- | | | |
|---------|--|----------------------|
| 【佳作】 | ちよっと待て
それでいいのか
その行動 | 伊藤 智子さん
(旧長浜) |
| 【優秀作品】 | 安全は 他人 <small>ひと</small> に頼るな
まかせるな | 北本 榮吾さん
(南郷里・北郷里) |
| 【最優秀作品】 | 家で待つ
家族思えば
安全作業 | 伊藤 皖一郎さん
(神照) |

応募総数110点から
伊藤皖一郎さんの作品が最優秀に

「最優秀」および「優秀」作品は、全国シルバー人材センター事業協会「令和2～4年度 安全就業スローガン」に推薦します。また、最優秀作品は、当センターの安全啓発スローガンとして1年間使用させていただきます。

安全スローガン、安全標語の応募点数は回を追うたびに増えています。安全意識は「確認する」「考える」ことから始まります。スローガンや標語の応募は、ご自身の就業環境を点検し、安全について考える良い機会です。今まで応募とは縁のなかった方は、今回はぜひとも応募しましょう。